

令和6年度第1回秋田県立博物館協議会議事録

1 開催日時 令和6年8月2日（金）
午前10時00分～午後12時00分まで

2 開催場所 秋田県立博物館 大会議室

3 出席者 19名

(1) 委員	梅津 一史	委員
	大塚 俊一	委員
	木村 美穂	委員
	佐々木美香	委員
	佐藤 操	委員
	高島 由美	委員
	早川 敦	委員（協議会会长）
	仲山 智	委員
	本田 由香	委員
	三浦美貴子	委員
	棟方 幸人	委員
(2) 生涯学習課	糸田 和樹	生涯学習・学習振興チーム学芸主事
(3) 事務局（博物館）	宇佐美行毅	館長
	阿部 雅彦	副館長
	新堀 道生	展示・資料チームリーダー
	加藤 竜	普及・広報チームリーダー
	丸谷 仁美	学習振興チームリーダー
	佐々木朋子	総務チームリーダー
	菅原 栄太	総務チーム主事

（出席者19名の他に、傍聴者1名）

4 議事概要

(1) 開会	
(2) 館長あいさつ	
(3) 会長あいさつ	
(4) 案件	
ア 報告「令和6年度博物館事業計画について」	
①調査研究、資料収集管理、展示活動について	展示・資料チームから説明
②教育普及、広報・出版活動について	普及・広報チームから説明
③学習振興活動、セカンドスクール的利用について	学習振興チームから説明

報告についての質疑・応答

[委 員] 体験活動に伝統工芸の方をお呼びするのはいつ頃のことか。
[事務局] 6月に樺細工の方を招き、樺細工のストラップづくりを実施した。
10月にハンカチにフキ刷りをするイベントを検討している。
冬にこけしの絵付けを計画している。詳細が決まりHP等で周知する。
当館の職員が実施するイベントが11月にある。

[委 員] ホームページやインスタグラム、フェイスブックに関して、イベントの開催告知だけではなく、「今の様子」などを頻繁にアップするとよいので

はないか。

伝統工芸の後継者が不足している状況の中で、体験を通して興味を持っていただくということで、参加者との方のどちらにとってもWinWinである。引き続き取り組んでほしい。

[議長] 教室や講演会の参加者数の増加は、コロナ開け前と比較してどの程度か。増えた要因に、ホームページやインスタグラムの影響はあるか。

[事務局] 古いデータと具体的に比較はできていない。コロナ前に戻りつつある、という印象である。ホームページやインスタグラムの影響はあると考えている。

イ 協議

令和2年度～令和6年度中期ビジョンの評価と
令和7年度から5カ年の中期ビジョンの策定

令和2年度～令和6年度中期ビジョンの評価と令和7年度から5カ年の中期ビジョンの策定について事務局より説明し、委員から意見を伺った。

[委員] 博物館としての役割をしっかりと果たす、という今までの中期ビジョンの4つの柱を考えながら企画展、ホームページの発信、などに取り組まれており入館者数が徐々に増えてきているということで、大変素晴らしいことだと感じた。ユーチューブの紹介動画については、視聴回数が物足りなく、1年前にアップされその後の追加がない、スライドショーのような作りでライブ感に欠ける、と感じた。ただ待っていては来館してもらえないで、インスタグラムやユーチューブなどのよりアピール力のある方法で、ライブ感のある「今こんなことをやっています」のような動画等をアップすることで若者にはアピールできると思う。名物の学芸員がライブで発信している館もある。30秒の動画で構わないので「縄文土器の魅力を熱く語る」「展示しているものの魅力を伝える」といったライブ感のある動画を提供できればもっと効果的なホームページだったり、SNSの活用につながっていくのではないか。

今年度までの中期ビジョンに関しては、8割方達成できているのではないか。新しい中期ビジョンの作成にあたっては、発信力の強化、個々人ができるようなことをすすめ、デジタル化されたライブラリーがあると見る人が増え、博物館に足を運ぼうという人も増える。この点について、もうひと頑張りしてもらいたい。

[事務局] ユーチューブの動画配信については、できればいいと考えている。予算、時間等すぐには対応できていないのが現況。ライブ感のあるコンテンツについては、当館独自に発信できることもあると思うので、発信のありかたを検討していきたい。

[委員] 求められている役割や機能も、街づくりや人口減少などを想定して職員が配置されているわけではないのに、すごく大変だと思う。着手しているところは正しいので見せ方が大切だと思う。

インスタグラムは自分もよく見るが、「今、何をやっているのか」「今日どうなっているのか」など発信する時期、旬を大事にするといいのではないか。インスタグラムで楽しい盛り上げ方をしているとフォローすること

がある。もう少し身近な存在に博物館がなるのではないかと思う。

[委 員] 小学校の校外学習でよく利用しており、雨が降っても活動できるので選びやすい施設である。低学年の児童であれば「わくわくたんけん室」で楽しい工作をすることができ、子供たちは満足している。展示については、漢字が読めない、時代の背景についても知らないなど小学生には少し難しい。「わくわくシート」があるおかげで1時間くらい飽きずに展示を見ることができるが、シートに書いてあることだけ見て他は飛ばしてしまうということもあり、シートに無いところも見てほしい時がある。シートのリニューアルをしてもらえるとよい。

小4で秋田県の伝統工芸、農業、工業、水産業など産業について学ぶが、現地には年1回程度しか行くことができない。博物館に来るとすべての学習が成り立つというのはとても助かると感じている。

太平の山谷番楽は小学校のクラブで担っていたが、統合によりこれからが危ぶまれている。子供の人数が減っていくと継承が難しいと心配されており、イブリガッコの生産が大変だ、とも伺っている。これから無くなってしまうかもしれないことを映像や資料として残し、復活させができるようにしておくことも「守っていく」ことにつながると考えている。積極的に資料を残してほしい。

[事務局] 「わくわくシート」については、「このシートを通して結果的に何がわかるのか」というシートを増やす検討をしている。今年度中に対応したい。

民俗芸能や民俗料理の継承については全国的に大きな問題になっている。他県での民俗芸能の調査を通して、小学校で教えられた子どもが大人になってからその地域の祭りや行事に参加する例がある。学校教育の中で取り組むことは大切と感じる。

[委 員] 発信力については、コロナ禍でのホームページやインスタグラムなど利用しやすさが向上したと感じる。その中で、自分たちが取材の際にも人のいない写真・映像を撮りがちである。映像の中に人がいるかいないかで伝わり方が大きく違う。そこに携わっている人がいるということを意識して発信するのが大切と感じている。

横手の近代美術館はメタバースに取り組んでいる。障がい者の方に美術に触れてもらうというコンセプトを持った取り組みというのが既に続いている、ユニバーサルの視点が取り入れられていると感じる。竿灯の時期であれば外国人やインバウンド、高齢者、こども食堂に携わっている人たち、福祉や支援している団体、など幅広い多世代、多様化した県民の皆さんに施設に触れてもらうためには、ユニバーサルの視点は必要だと思う。声をかけると興味を持ってくれる人が、秋田市を中心に多くいるのではないかと思う。そのような人たちにアプローチするために、インスタグラムで発信、直接声をかけるといったことを意識してほしいと感じた。

重点目標の中の調査研究活動について、新聞の文化欄には県内外から寄稿いただくが、秋田の調査研究はまだ弱いと感じる。調査研究についてより増強するということを意識した方がよいのではないか。目標の2番目以降は、博物館の資料を公開するということに重点を置いている。本分である調査研究についての方針が薄いのではないかと感じた。既存の研究もあれば新しい研究テーマもあり、成果を単年で図るというのは難しいが、調査・研究にエネルギーを注ぎ込むということを目指してほしい。

[事務局] 調査研究については、学芸職員が資料の収集・研究・活用まで一貫して行うマルチタレント的な体制である。活用を頑張りすぎると収集・研究になかなか手が回らない。調査研究に力を入れていきたいと考えており、プロジェクト的にチームを作っての調査研究などやり方の工夫をし、個人で頑張るだけではなくプロジェクトチームでテーマを固めるということをこれから考えていかなければならぬと感じている。ご提言いただいたことを念頭に取り組んでいきたい。

[委 員] 今回は昆虫展で、子供たちがとても興味がある分野だろうと思う。今日もたくさんの子供たちが来歩いて、とても良い企画だと感じる。自分の子供も虫に触ったことがなく、虫がいると大騒ぎをするので見てみると小さなバッタだった。昔は私自身もカブトムシを取り行ったりしていたが、今の子供たちは経験がなくやり方も知らないと思うので、もう一步踏み込んで体験の企画があればいいと感じた。

今後の中期ビジョンについて、例えば「孤独・孤立の状況に陥りかねない人々の居場所」といったところまで博物館に求められているということには驚いた。すごい難しい課題で、求められるものが多いと感じた。現在バスケットボールのチームを持っているが、高齢者向けの健康面を考え一人暮らしの高齢者が多い中で何か仕掛けられないかということで、選手たちが高齢者を集めて体育館で健康づくりを行った。そこで知り合った高齢者同士が仲間になり楽しかったという声を聞くことができた。今あるソフトの部分をうまく活用することも大切だが、何をやるにも工数がかかるということがわかった。ホームゲームを運営する際に0から構築することとなつたが、集客のイベントを仕掛けるにあたつてもとても工数がかかりスタッフだけではできないということがわかった。先ほどの専門家がいない、人的リソースが足りないということは博物館の大きな課題だと思うが、プロジェクトチームを組むことで、いろいろな専門家やボランティアとして活動できる人を巻き込むことができる。いろいろな人を巻き込むことが大事。活動することで皆が触れ合ったりコミュニケーションをとったり、違う面白さを感じることができる。実際にプロジェクトで活動すると、関わった人たちが、面白かったと言ってくれる。プロジェクトは運営・管理についてとても工数がいるため大変だが、自分たちは工数の減らし方について考えながらやっている。うまく巻き込んで皆が面白くやってくれるといい。楽をしながら楽しい企画をやってもらいたい。

[事務局] 昆虫展については、今回は生きている昆虫を展示している。博物館としては、菌のことなどもありかなりのチャレンジである。触れる展示もいつかやりたいと考えている。

[館 長] 色々なご要望があり、すべてに答えることはできないが、できることを色々考えながら対応している。皆さんのご意見をいただきより高いところを目指していきたい。

[委 員] これから博物館に求められる役割に、「つなぐ、向き合う」があり「福祉」も含まれる。今、地域福祉の問題などが重要視されているが、インターネットなどから検索がうまくできない人たちは取り残されていくような印象を受けた。生涯学習や地域福祉を考えた場合は、博物館に来るだけではなく、博物館を持ち出すような取り組みを進めることはできないか。近代美術館では、インターネットを使って出前講座を行っており、パソコン

と 3 D 用のゴーグルを使い、実際に体験させている。美術館に来れない人のためにそれぞれの施設に出向き、少人数で体験させており、いいなあと感じた。小さな施設でも出前講座をボランティアを使ってできなか。施設に入っている人たちは博物館のことを知らない人が多いので、出前講座などで博物館が面白いということを伝えられたらなあと思う。

[事務局] 当館も出前講座は行っており、ネットを介してではなく、講師を派遣してお話をしている。宣伝不足の部分があるとは思うが、県内どこでもできるのでご利用いただきたい。

[委 員] 楽しく、博物館はいいな、と思うような出前講座になってほしい。

[委 員] 秋田は高齢化が進んでいて、誰でもユーチューブ、インスタグラム等の S N S を見ることができるわけではない。アナログの良さを大切にして、チラシや博物館通信の発行を残してもらいたい。皆さんのがスマホを操作するのが得意なわけではない。

博物館はアクセスが悪い場所で、観光客には不便な場所。一方で、駐車場が広く安心して車を停めることができる。高齢の方の中には、秋田駅の近くは駐車場が狭く不安で行きたくてもいけない。ここは安心してくることができ、ランチも楽しみにしている。デジタルや若い人という目線もあると思うが、年配の方への視点も残してほしい。駐車場は大型バスも停めやすいので、クルーズ船の客を大型バスで誘導するなど、アクセスが悪いことに囚われず、できることを提案していけばいいのではないか。

「美の交差点」を見学した際に、解説員が質問に答えてくれ、より詳しく知ることができた。来館者は解説員がいるということをあまり知らないのではないか。説明がわかりやすく知識も豊富であった。解説員と一緒に見る時間を設けるなど、解説員を活用する仕掛けはできないかと感じる。

[事務局] 解説員は常時受付で待機して質問も受けている。展示数が多く解説員に気づかない人もいるかと思う。他館では、解説イベント、展示解説会を定期的に設けているところもある。当館の解説員もそのようにできるかは検討してみたいと思う。

駐車場が広い、大型バスが停めやすい点については、P R していきたい。

アナログの良さに関しては同感である。実物を扱う機関であり、紙のチラシを大事にするという発想の職員もいる。デジタルと同じように大切にしていきたい。

[副館長] ある委員に、ロビーでピアノコンサートを企画していただき、200 名程の方に来館していただいた。毎年開く 2 月のジャズコンサートと違い、初めて 7 月に行う企画のため知っている人がいない状態であったが、ホームページのほかに、広報、新聞への掲載、A 4 版のチラシを町内会で配布するなど、既存の新聞、テレビ、ラジオ、紙などのメディアも利用した。両方できてちょうどいいのではないかと感じる。

[委 員] 今年度は高校の P T A 会長も仰せつかっている。生涯学習、社会教育が必要で、学びは大人になってからも必要と感じている。小学生は素直に色々なことを受け入れるが、中学生、高校生は捉え方・感じ方が違い、大学受験を控える子供にとっては大学受験の勉強のための歴史、博物館という受け止めもあると感じる。

デジタル化による情報共有はとても必要なことと思う。横手市P T A連合会で「横手P T Aテレビ」というユーチューブチャンネルを開設している。私自身が「博物館やってきた」というユーチューブ動画をアップすることもできる。来場者の方がライブ配信することもできるがどうか。スピード感・臨場感のある発信につながるのではないか。

「秋田のコメ作り」については、小学生にとってもコメ作りについて学べるよい機会であると思う。私も農業を営んでおりJA秋田で役員をしているので、農業のこれからについて情報提供をしたり、博物館の活動をJAに伝えたりということもできる。

令和8年度高等学校P T A連合会の東北大会があり、研究大会の当番校に決まっている。秋田の情報の発信として、博物館を組み込んで研究大会にて発表できればいいと考えている。

[事務局] 外部の方からライブ配信してもらうのはいいと思う。博物館が作るものでは、興味を持っている方しか見に来ない。色々な立場の方が発信するということはいいことではないか。検討してみたい。

[委 員] アイリスの会40名ほどで博物館のボランティアをやっている。博物館の要望があれば最大限に協力し、来館者の増やしていくようにがんばりたい。協力します。

[委 員] 旧職員で、今でも週一回標本の整理に協力している。週一回のペースだが、在職中とはけた違いのペースで整理が進んでいる。事務局の回答にあったように、それぞれの職員が全部やらないといけない。雑芸という言葉があるが、資料を探して持ってきて、調べ、広報を資料を作り、普及行事を行う、ということを一人で全部やらなければいけない。その大前提として、資料を見てそれが何であるのか、何という名前で呼べばいいのか分かる人でないと務まらない。そこが危なくなってきたので、中期ビジョンの「継承と発展」になったと思う。博物館内部でも、博物館力が維持できなくなりつつあるという危機感を持っていたからこののような中期ビジョンを掲げたと思う。専門職員が足りないのではないかという意見が先ほどからあったが、そういうところに理由がある。物を見てそれを何と呼べばいいのか、博物館の中でもそれぞれの分野の担当職員は一人しかいないので誰も教えてくれない。初めから若い人を持ってこないと、まず仕事が始まらない。ずっと昔から課題があったのだが、いよいよ差し迫ってきたと感じる。県立の博物館で、職員の半分以上を学校の教員で賄っている博物館は全国でもごく少数で10館ほどではないか。全部専門職という所や半分は専門職・半分は教員という所が結構ある。各分野に一人いて、学芸職員の半分が専門職の人を置くとしないと、博物館の機能が維持できない。博物館を維持できるというのは、どういう職員がいるか、にかかっているので、教育委員会としてどういう考え方を持ってやっていくのかということになっていくと思う。

今後の中期ビジョンに関しては、二つある。今ベテランの人たちが、10年後には退職となる。そのあとに続く人材がいるのか。博物館の建物、今後10年で博物館がどうなるのか。ビジョンというのは、これから先5年10年後にどう見ていくかが示されなくてはいけない。生涯学習課ともやり取りをしつつ、これから先にどういう見通しを持つのかが課題なのだと思う。

[事務局] 建物については、博物館、学校など県の建物すべてについて、以前よ

り検討を始めている。博物館についても検討はしており、結果を示すのは先になるが、耐用年数や収蔵庫について情報を集めながら考えている。

〔館長〕 運営に関する中期ビジョンは必要であるが。この建物が耐用年数を超えている状況から、5年後10年後に、この建物をどう維持し、変えていくのかということ。人材については、現在正規の職員の平均年齢が51歳で、20代の学芸員はいない。子供たちに対する博物館としての教育や活動を分かってもらうのも大事であるが、職員の担い手をどのように確保するのかが喫緊の状況である。人材確保、育成に向けて取り組み、持続可能な施設として成り立たなくなることのないよう館内でも意識している。

〔議長〕 中期ビジョンと評価については、ビジョンに対して何ができたかが分かりやすくまとめられていると良い。ビジョンに対して、年報のこの部分で実践してきた、ということが分かれば、人材の確保や育成の部分で、ここが足りていないので確保が必要だ、という風に教育委員会等に訴える材料になるものと考える。

来館者の増加に向けて、「博物館浴」というのが話題になっているとテレビの番組で取り上げていた。九州産業大学の教員が研究対象にしていて、博物館には「広い空間」「少し薄暗い」「展示物がある」などリラクゼーション効果があり、実際に血圧が下がったなどの実証データもある。高齢化の進んだ秋田で、健康増進にも博物館は良い、とアピールできるのではないか。

一方で若者は減り続けていくのは分かっている。リピーターを増やすのが大事ではないか。わくわくのコーナーでたくさんの児童が来てくれているので、この子供たちを手放さないという仕掛けが大切ではないかと考える。小学校の高学年くらいで一旦途切れてしまうのではないか。そこをつなぐコンテンツを、このステージが終わったら次はこちらのステージがある、と保護者に示すことができれば、リピートにつながるのではないか。

ウ その他 令和6年度ミュージアム機能強化事業「特別展」の評価依頼について

ミュージアム機能強化事業に係る外部委員評価制度について説明し、令和6年度特別展「世界の昆虫展」の評価を依頼した。

（5）閉会